

混合交通を観察する
DOCUMENT
series 188
Eye

平成16年に発生した歩行者の交通事故は8万2537件にのぼる。このうち「飛び出し」や「横断歩道外横断」「走行車両の直前直後横断」や「信号無視」など歩行者側の法令違反で発生した交通事故件数は3万6226件。年齢別では15歳以下が1万2986人(35.8%)。次いで多いのが65歳以上の高齢者8654人(23.9%)で、両者で全体の6割

歩行者や自転車は道路を正しく横断しているか

WHY



観察場所 / 東京都杉並区阿佐谷南1丁目「中杉通り」周辺
観察日 / 9月15日(木曜日)
天候 / くもり
観察時間 / 18:30~19:30
観察者 / 5名

近くを占めている。また、30歳代の歩行者の事故も2855人で、10年前に比べて1.4倍に増加している。横断する歩行者が見えにくくなる日没後、東京都内で横断歩道以外を渡る歩行者と、年々事故件数の増加している自転車は、ルールを守って道路を横断しているか、観察してみた。



通りを隔てた店舗をめざして、横断歩道以外の場所を渡る歩行者

夜間に横断歩道以外を渡る歩行者と自転車を観察する
1時間に横断歩道以外の場所を渡った歩行者140人、自転車19台

WATCHING



写真上 / 携帯電話を操作しながら横断する歩行者
写真下 / 親子で渡るケースもあった

横断歩道を使わず店舗の前で横断

観察場所は東京・杉並のJR阿佐ヶ谷駅から南に伸びる「中杉通り」。阿佐ヶ谷駅から青梅街道まで約500mが直線となる道路。片側1車線だが、道路の両側にはパーキングメーターによる駐車スペースがあった。歩道には「横断禁止」の標識が数カ所に設置されていた。この道路を通過するクルマは30~40km/hの速度で走行しているように思われた。また、車道には無灯火の自転車も頻りに往来していた。この約500mの直線区間で観察した結果、1時間で歩行者140人、自転車19台が横断歩道以外の場所で道路を横断していた。

特徴的なのはコンビニエンスストアや飲食店など店舗の前で横断する例だった。横断歩道を使わずに歩道を、通りを隔てた目的の店舗の前まで歩き、そこから横断するという例で、会社帰りのサラリーマンやOLと思われる歩行者が目立った。また、クルマのドライバーも通りを隔てた店の近くに車を止め、通りを隔てた店舗に向かって横断する例が多かった。中学・高校生の姿も見かけたが、横断歩道以外の場所を渡ることが少なかった。横断禁止場所を横断した人たちは急

PROPOSE

店舗の近くでは横断する歩行者に注意

観察地点は横断歩道以外、「横断禁止」であったにもかかわらず堂々と道路を横断する歩行者が多かった。直線道路ではスピードを出しているクルマも多い。歩行者や自転車は、横断歩道など指定された場所以外を横断しないでほしい。ドライバーは、横断歩道以外の場所であっても突然、歩行者や自転車が横断し

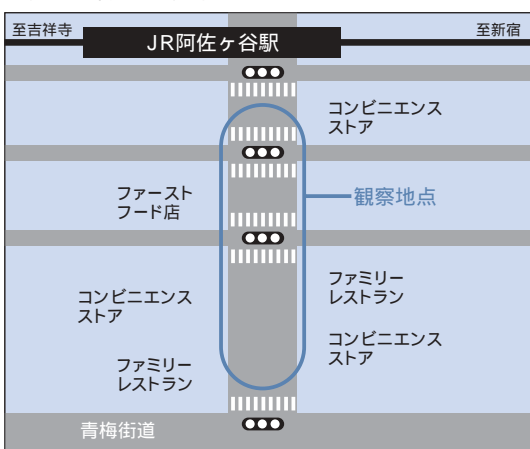
に飛び出したりせずに、クルマの往来が途切れるまで待つ。ゆっくりと道路を渡っていく例が多かった。道路は直線であるため走行するクルマの接近はヘッドライトの点灯で早めに察知できるが、駐車車両が多いため、道路を渡る歩行者や自転車は慎重に左右確認を行っていた。高齢と思われる足の不自由な女性が片手に杖、片手に荷物を持って、かなりゆっくりと道路を渡るケースも観察された。携帯電話を操作しながら横断するサラリーマンやOLも見られたが、その場合は左右の確認が不十分と思われた。



写真上 / 道路をナナメに横断する自転車
写真下 / 横断歩道が近くにあっても利用しない歩行者

てくることを予測しておく必要がある。通りを隔てた店舗などに向かって道路を横断する歩行者や自転車は、駐車車両のすき間などについて、直前まで見えないこともある。特に、コンビニエンスストアや飲食店の付近は注意してほしい。夜間は自分のクルマと対向車のライトにより道路を渡る歩行者が見えなくなってしまうこともあるので、よりいっその安全運転が必要である。

観察を行った場所



横断歩道以外で道路を横断した歩行者・自転車

	歩行者			自転車		
	男性	女性	小計	男性	女性	小計
子ども	1	0	1	0	0	0
中学・高校生	1	0	1	0	0	0
成人	83	45	128	9	9	18
高齢者	6	4	10	1	0	1
小計	91	49	140	10	9	19

子ども(小学生以下) 中学・高校生、成人(18歳以上64歳以下) 高齢者(65歳以上)の判断は観察者の見解による